



統一地方選挙の投票日は 4月12日(日)と26日(日)です

あなたの大切な1票を

☎ 選挙管理委員会事務局 (旧水道庁舎 ☎23-3331 内線226)

投票できる人

今回の選挙で投票できるのは、投票日に20歳以上で、引き続き3カ月以上伊達市の住民基本台帳に記載されている方です。

選挙区と定数

北海道知事・北海道議会議員・市長選挙は、伊達市全体を1つの区域として行います。

市議会議員選挙は、伊達地区と大滝地区の2つに選挙区を分けて行います。選出される議員の数は、伊達地区は17人、大滝地区は1人です。

※市議会議員は選挙区ごとに選挙を行いますので、それぞれ別の地区の候補者を選ぶことはできません

期日前投票

投票日当日、仕事やレジャー、買い物などで投票所に行くことができないと見込まれる方は、伊達地区と大滝地区に設ける期日前投票所をご利用ください。

届いた入場券の裏面の宣誓書に必要事項を記入し、会場に持参してください。

期日前投票の日時

北海道知事選挙

3月27日(金)～4月11日(土)

北海道議会議員選挙

4月4日(土)～4月11日(土)

※大滝地区のみ

4月7日(火)～4月11日(土)

午前9時～午後7時

市長・市議会議員選挙(大滝地区含む)

4月20日(月)～4月25日(土)

いずれも午前8時30分～午後8時
(土・日曜日含む)

期日前投票の場所

北海道知事・北海道議会議員選挙

旧水道庁舎、大滝総合支所

市長・市議会議員選挙

選挙区ごとに投票所が異なります

●伊達地区 旧水道庁舎

●大滝地区 大滝総合支所

不在者投票

不在者投票ができるのは次のどれかにあてはまる方です。

①投票日には20歳になるが、期日前投票をする時点で未成年(選挙権を有していない)の方

②病院や施設に入っているため投票所に行けない方

③身体障がい者が要介護者で、郵便投票の認定を受けている方

④一時的に市外に滞在(出張・旅行など)している方

※詳しくはホームページをご覧ください
だかが担当にお問い合わせください





総合病院 伊達赤十字病院への 財政支援について

☎ 保健センター予防係 (☎23-3331 内線632)

今年1月22日の市議会臨時会で、総合病院伊達赤十字病院に対する補助金2億円の補正予算案が議決されました。

そこで、今月号では平成22年度以降継続する伊達赤十字病院に対する支援についてご理解とご協力いただくため、その理由や支援にいたる背景などをお知らせします。

市が支援を決定した理由

伊達赤十字病院は、昭和15年の開院以来、胆振西部の中核病院として伊達市民はもとより地域住民の生命と健康を守ってきました。

「医療機関の充実」はまちづくりの基本であり、一刻を争う「救急医療」の面で同院がなければ、室蘭市内の基幹病院に頼らざるを得ません。また、「病気予防」の面でも多様化する予防接種や健診の担い手として同院が果たす役割は重要です。

しかし、近年医療を取り巻く環境が大きく変化し、慢性的な医師不足による診療科目の減少などで厳しい経営状況に置かれています。

同院は、これまで日本赤十字社本社からの医師派遣、病院診療にかかるとる経費削減を行うなど、経営改善を図ってきましたが、いまだ確実な回復には至っていません。

そのため、市は地域医療の確保・充実のために、同院の財政支援を決定しました。

支援が必要になった背景

- 度重なる医療法の改正や診療報酬のマイナス改定
- 平成16年度から始まった新医師臨床研修制度で、研修医は幅広い知識と経験を積むために、大学病院だけではなく、広くさまざまな病院などで研修を行うことになったので、大学病院の医師が不足し、地方の病院に派遣する医師が不足した。
- 産婦人科や小児科など、医師への負担が大きい診療科の医師不足
- 循環器科・眼科・皮膚科の常勤医師の減員で外来や入院患者数が減少した。

支援に必要な財源措置

国は、平成20年度から過疎地などの「不採算地区」に立地する公的病院（日本赤十字社、済生会、厚生連などが設置する病院）の運営に助成している市町村へ、公立病院に準じて特別交付税を措置して、市でも、平成23年度から財政措置を受けています。その金額は、平成26年12月交付分では1億千63万9千円、市の負担は実質約8千万円です。

また、この財政措置を受ける自治体は年々増加していて、平成24年度の対象になった市町村は、北海道内だけでも104団体になっています。

これからの伊達赤十字病院

平成27年度の診療体制は、17診療科、医師26名体制で行われます。昨年の10月から産婦人科の常勤医師が2名体制になり、これまで制限していた分娩取扱数も解除されています。

さらに、経営改善の一環として一昨年10月に療養病棟を新しく開設しました。療養病棟は、急性期の治療を終えても引き続き医療必要度が高い患者さんや慢性疾患で症状は安定しているも継続して療養が必要な患者さんのための入院病棟です。

市でも、これまで北海道や国に対して、胆振西部地域に不足している呼吸器科・循環器科医師の確保に向けた要望を行っているほか、伊達赤十字病院でも診療科の充実のため、医師の確保に向け独自の取り組みを進めています。

今後も同院がより良い医療サービスを提供するとともに、市民の皆さんと信頼関係を構築できるよう、自主的な経営改善に向けた努力が進められているか注視していきます。

